

11 子どものSOSを受け止めるために（子ども）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、高木悠未がお届けします。今日のタイトルは「子どものSOSを受け止めるために」です。

NP O 法人「あいむ」の藤野 莊子さんは、2022年から、深夜、繁華街の公園に集まる子どもたちに声をかける活動を行っています。

【藤野さん役】子どもたちの中には、不登校になったり高校を中退したりした子、家出をしてきた子、保護者からの虐待や育児放棄が疑われる子もいます。例えば、保護者から食事を与えられず、幼いきょうだいの世話を押し付けられ、日常的に暴言を吐かれていた男の子は、自宅にすることが辛くなつて公園に来ていました。

子どもたちは、信頼関係のない大人に相談することはありません。苦しさや不安から何とか解放されたくて、同じような悩みを持つ仲間がいる公園に引き寄せられるのです。家や学校で居場所を失った子どもを放っておくと、野宿をしたり、辛さから逃避するために薬物を過剰摂取したりすることにもなりかねません。悪いことだと分かっているけど、生き延びるために犯罪に手を出してしまう危険もあります。

25 SOSをうまく言葉にできない子もいるので、待っている
だけではなく、こちらから声をかけて関係性を築いていくこ
と、「困ったときには私たちがいる」と伝えることが大切な
です。

30 (ナレーター) 藤野さんたちは子どもたちと話をして生活
状況や困っていることを聞き、警察や病院などの機関と連携
して適切な支援への橋渡しをしています。

35 【藤野さん役】公園には、毎日来る子もいれば、週末だけ来
る子もいます。私は支援のため県内外に行く日もあるので、
NPOの職員とボランティアが対応することもあります。
子どもたちは、環境や人間関係が安定すると「勉強したい」
など、これからやりたいことを前向きに話してくれたりしま
す。苦しい時期を乗り越え、自立して働きはじめた子もいま
す。

40 (ナレーター) 藤野さんが、今までSNSでつながった子ど
もたちは100人を超えました。子どもたちの声に耳を傾け、
声にならない声までも聞き取ろうとしている藤野さん。これ
からも、周りと連携しながら、一人一人のSOSを受け止め、
支え続けます。

45 (本文890字)